

広報ちゅうぎん

2月1日発行
編集者：安里

リハビリテーション看護とは

リハビリテーションって？「リハビリテーション」は「尊厳の復権」という意味で、Re=再び、habilis=ふさわしい、-ation=にすることこれをまとめると「自分にふさわしい（納得できる）人生を再び創っていく」こと1)

リハビリ病院に入院される患者さんは急性期治療を過ぎて後遺症（脳血管疾患・脊髄損傷・下肢骨折や廃用）によって日常生活に何らかの支障をきたしている患者さんです。これらの後遺症が今後の生活に及ぼす支障を出来るだけ少なくし自分らしく生活する方法を身につけていかなければなりません。

ここで、看護師は何をしているのかを紹介したいと思います。

まずは、患者さんの持つ力（残存能力・潜在能力）を最大限に引き出していく必要があります。24時間患者さんの側にいる看護師だからこそ気付くことができることもあるのでどんな小さな変化も見逃さないように。また、今ある力を最大限生かせるように手を出さずに見守っています。（出来ることを引き出してそのことを伸ばしていけるようにと心がけているのです。）

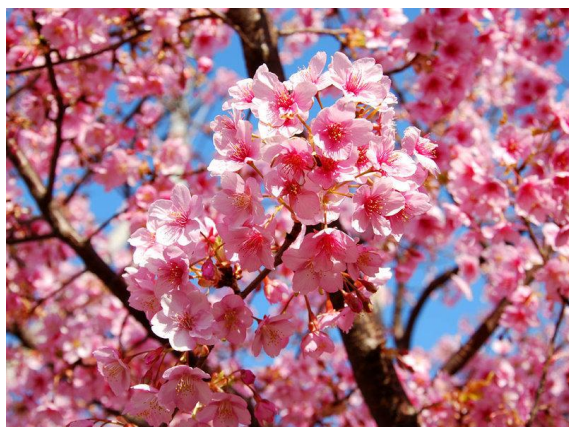
そして、入院生活の全てがリハビリの場となるので、自立へ向けての援助として生活のリズム付けが大切です。離床（ベッドから起きる）し食事・排泄・入浴・活動と休息など。また、家族とともに過ごす時間も大切にしながら一日のリズムを付けていきます。さらにリハビリを行

なっていくうえで健康管理も必要となってきます。再発・合併症（元々ある病気からさらに他の病気が伴ってしまう）の早期発見が出来るよう意識や血圧・体温・栄養状態や排泄状態などあらゆることを観察していきます。（水分摂取の促しや間食についてなど言っているのには訳があるので、看護師などに聞いてみてください）

それから、患者さんや患者さんを取り巻く家族に合った新しい生活が出来るように共に考えていきます。これらのことは入院時から退院後の生活を考えながら行っていかなければなりません。

リハビリの看護はまだまだこれから発展している段階です。そのなかで私たちは、患者さん・家族の笑顔に支えられながら日夜頑張っています。

それには、患者さんを中心に医師・看護師・介護士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・ケースワーカー・栄養士・薬剤師などがチームを組んで同じゴール・可能性に向かって取り組んでいます。患者さんの一日でも早い社会・家庭復帰が出来るよう、チームでサポートしながら看護に取り組んで行きたいと考えています。



身体拘束について知っていますか？

当院は、リハビリテーション病院として、患者様の家庭・社会復帰を援助していますが、その患者様の多くは、骨折や脳卒中による後遺症により、日常生活を送る上で機能的に障害を患っています。そのため、朝ベッドから起きるとき、椅子やベッドから立ち上がる時、廊下を歩くとき、トイレで用を足すとき、常に転倒や転落の危険性と隣り合わせにあります。認知症の方や意識障害のある方では、経鼻チューブや胃ろうチューブを抜くことで誤嚥を起こす危険性もあります。当院では、このような事態に備え、やむを得ず患者様の身体を拘束することがあります。

●身体拘束をする上での条件

具体的に当院で行っている身体拘束には、未然に転倒を防ぐために使用する「Y字帯」「I字帯」「オーバートーブル」、気切カニューレーや経鼻・胃ろうチューブ抜去を防止するための「ミトン」、ベッドからの転倒・転落しないために講ずる「ベッド柵紐固定」や柵を外すとセンサーが鳴る「柵センサー」などがあります。もちろん人を拘束するわけですから、それにはきちんとした評価と手続きが行われます。

身体拘束が必要と主治医に判断がなされた場合には、身体拘束に関して同意を求めるとの説明を本人や家族に行います。身体拘束の条件には、A「利用者本人又は他の利用者などの生命又は身体が危険にさらされる可能性が著しく高い」場合、B「身体拘束その他の行動制限を行う以外に代替する看護・介護方法がない」場合、C「身体拘束その他の行動制限が一時的である」場合、に限定されています。しかし、時にはAの場合だけが優先され、安易に身体拘束に対策が偏り易くもなっています。この条件A・B・Cの全てが満たされているかをチェックするため、身体拘束委員会では、定期的に患者様の身体拘束状況の報告とその検討を話し合っています。

インフルエンザ予防方法

- ① こまめにせっけんて手を洗う！
(ウイルスはどこでもくっ付いている)
- ② うがいの習慣をつける！
(人ごみの中にはウイルスがただよっている)
- ③ 咳やくしゃみが出るときはマスクをする！(人にうつさないために)
- ④ 発熱、のどの痛みなどがあつたらすぐに病院に行く！(早期発見)
- ⑤ 人の大勢集まる場所にはなるべく行かない！
- ⑥ 夜は早く眠り体を休ませること！
(ウイルスに負けない身体づくり)

